

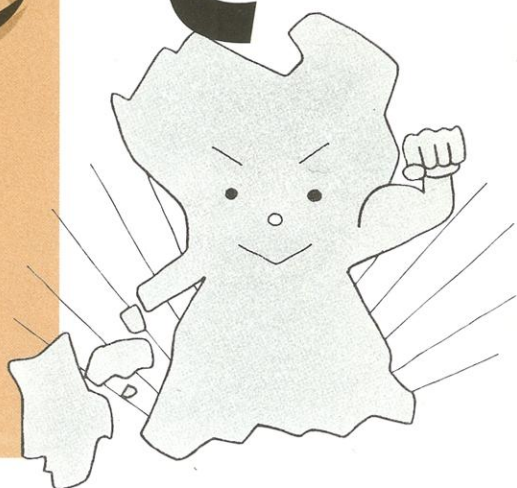
## 知事室から



熊本県知事 福島 譲二

## 特集

# 力強い産業の構築を目指して



## チャレンジ!

「次の時代に向けて新しい取り組みが始まっています。豊かさを実感できる暮らしは、各産業が元気で調和している郷土づくりから始まります。」

県では、力強い産業の構築を目指して、人材育成や技術支援、資金的な支援などさまざまな施策を進めています。中でも、ハイテク・バイオなどの新技術を活用した生産性の向上や新しい産業分野の創造は、重要なテーマです。

今回の特集では、新たな熊本の産業の構築に向けた主な動きをお伝えします。

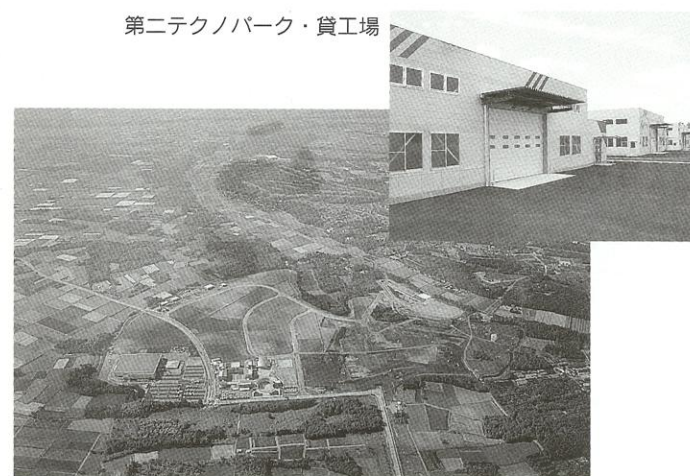
## 工業

### 進む半導体関連産業の集積

熊本県では、産業全体に占める製造業の割合は他県に比べると低い水準に留まっています。しかし、近年テクノポリス計画を軸に、半導体関連産業を中心とした先端技術の集積、企業進出などが続き、製造業は発展を遂げてきました。

現在、県では、テクノポリス第三期開発計画に基づき、新しい技術や産業を生み出すための共同研究開発やベンチャー企業の育成などに取り組んでいます。

テクノポリスの新たな拠点として整備を進めている工業団地「第二テクノパーク(菊陽町+台志町)」は、全区



新たな拠点、第二テクノパーク

画を分譲中。一部区画に県内外の優良企業の立地が決定しています。第二テクノパークの大きな特色のひとつに、貸工場があります。これは、

企業を創設したり、新分野への展開を行うおとする事業者の負担を軽くすることで、起業化や新産業の創造を促進することを目的としています。

このほか、産学行政が連携して高度技術の研究開発を行う「財」熊本テクノポリス財団共同研究棟(仮称)や、みなまた環境テクノセンター(仮称)の整備を進めています。

## トピックス

### 起業化を強力にバックアップ

「財」熊本県起業化支援センターでは、新しく事業を立ち上げようとする人や新分野に進出する企業を支援しています。具体的には、起業化に関する政策的な相談や投資による資金面の支援を実施しています。詳しいお問い合わせは、熊本県起業化支援センター事務局(0963-760105)まで。

## 商業

### 新たな商店街活性化策に着手

現在、多くの市町村で商店街の賑わいが失われつつあります。商店街は、いわば地域の顔その活性化は重要な課題です。

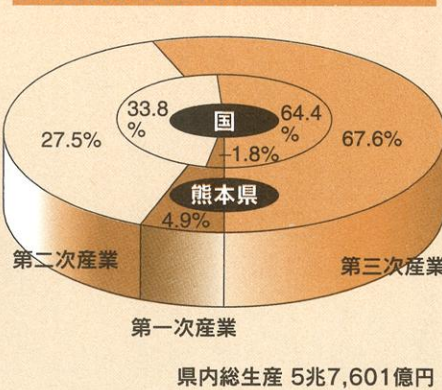
このため県では、商店街に賑わいを取り戻すことを目的に、「賑わいのある街づくり事業」を今年度から新たにスタートさせました。

## 熊本の産業の今

■半導体関連など先端技術産業の集積が進む一方、農林水産業は、全国的に高い地位を誇っています。

しかし、比較的順調に発展を遂げてきた商工業についても、製造業の割合が全国平均に比べ低い、全国同様商店数が減少しているなどの課題があります。

### 県内総生産(7年度)



### 全国上位の熊本の産業データ

熊本は世界でも有数の半導体生産地域です。世界の生産額の約3分の1が日本、その約3分の1が九州、その3分の1が熊本です。

1位: 露地メロン、いぐさ、すいか、養殖ふぐ

2~3位: テコポン、養殖くるまえび、タケノコ、甘夏みかん、トマト

4~8位: 養殖真珠、スギ・ヒノキ、干しシイタケ

中核農家数 一戸当たり農業所得

※平成7年度または8年度の実績 ※主な品目などをご紹介します。

## 農業

### 国際化に対応する 高生産性農業の確立に向けて

本県は、多彩な農業生産が展開され、先進的な経営も多くみられる全国屈指の食料生産県です。また、本県農業は、多くの産物とのかかわりをもち、すそ野の広い産業であり、地

## トピックス

### 熊本県の中小企業向け融資制度

熊本県では、最近の経済状況により売上減少した中小企業の方の経営の安定を図る「経営支援特別資金」や「活気のある商店街にするための商店街活性化資金」をはじめ、中核企業育成資金、貿易振興資金を創設しました。

詳細は、熊本県商工金融課(0963-833111) 内線5144又は商工会議所商工室までお問い合わせください。



新たな装いの熊本市上通りアーケード

これは、市町村が、地域住民や業者等に幅広い参加によって街づくり計画を策定し、それに基づいて公共性のある集客施設を整備するときに、支援を行うものです。

第一回の対象市町村として、このほど菊池市と宮原町を決定しました。

域経済の中で重要な役割を果たしています。

しかし、国際化や規制緩和の進展、環境問題への関心の高まりなど、農業をめぐる環境は、大きく変化しています。このため、県では、国際化にも対応できる生産性の高い農業の確立に向け、各種の取り組みを進めています。

低コスト水田農業を目指して

生産性の高い水田農業を確立するため、生産基盤の整備を進めるとともに、規模拡大や集団化などを進めています。ほ場を一〜二ヘクタールに大区画化し作業効率を高める一方で、集落単位または数集落にまたがる生産組織を育成し、高性能機械を導入することによって作業の共同化や省力化を図り、大幅に生産性を高めることに成功した事例が県内各地で生まれています。



すいかの非破壊糖度センサー

畜産では、阿蘇の草原を活用しながら低コスト肉用牛の生産を図る熊本型放牧を進めています。また、一年を通じて放牧する周年型放牧も、技術的な検証を終え実用化が始まっており、低コスト化に向けた新たな取り組みとして期待されています。

また、需要低迷などにより厳しい環境にあるいぐさについても、省力化、機械化などをはじめ、経営の安定化を図るための対策に積極的に取り組んでいます。

## トピックス

### 新品種「新技術」によるブランド化

県が開発した新品種「米の森のくまさん」や極早生温州みかん「豊福早生」・肥のあけほの「いぐさのひのみどり」などの優良品種は、ブランド化を進めていくうえで大きな戦力になるものと期待されています。また、受精卵移植などのバイオテクノロジを活用し、高品質の肉用牛をより多く生産するための取り組みを進めています。

安定した生産もまた、ブランド化



肥のあけほのみかん、森のくまさん(米)、ひのみどり(いぐさ)

## トピックス

### 新たな農業基本法の制定へ

農業を取り巻く環境の大きな変化に対応するため、農業基本法の見直しが進められています。①国内での農業生産を基本とする。②食料自給率をのり以上に設定する。③株式会社等の農地取得を認めるべき。④中山間地域等における直接所得補償制度をこのまゝ導入する。などが検討されています。

県としては、本県の特色に即し、農業、農村の活性化につながる内容となるよう、国に要望するともに社会経済情勢に対応した施策を進めていきます。

## 製品出荷額の約半分を占める誘致企業。

県内の工業製品出荷額の約半分は、誘致企業によるものです。

中でも、コンピュータの半導体、電子機器関連、食料品、モーターバイクや造船などが大きな割合を示しています。九州は半導体関連企業の集積が進んでいることが「シリコンアイランド」と呼ばれ、熊本はその中心となっています。

優秀な人材や自然環境などの立地条件から、最近でも本県への優良企業の進出が続いています。企業の誘致は、雇用の場の創出や、高度な技術の集積など地域の産業全体の活性化につながる企業誘致を県では、今後も積極的に進めていきます。



企業進出調印式